

インターンシップ		実習	就職委員会
科目カテゴリー	自由科目	科目ナンバリング	24000301

1. 授業のねらい・概要

インターンシップは、学生が企業等において実習的な職業体験をすることを通じて、自己の職業適性や将来設計について考える機会となるものである。この実習および事前学修・事後学修を通じて高い職業意識を育成し、主体的な職業選択をすることができるようになり、就職後の適応力を向上させることを目標とする。また企業等の現場において高度な知識・技術に触れながら就業体験を積むことによって、課題解決・探求能力、実行力といった社会人として必要な能力を高め、自主的に考え行動できる人材となることを目指す。

2. 授業の進め方

各自が希望するインターンシップ・職業体験先の選定から応募に関わる手続き、実習先において求められるマナー等について確認しながら必要な事前学修を行い、実習終了後に報告書を作成して報告会を開催する。

3. 授業計画

1. オリエンテーション 2. 実習先選定の準備（自己分析） 3. 実習先選定の準備（業界研究） 4. 応募の方法と各種手続き 5. 実習参加の準備（文章表現） 6. 実習参加の準備（グループワーク） 7. 実習参加の準備（ビジネスマナー）	※. インターンシップ・職業体験参加（5日間以上） 8. 参加報告書の作成 9. 参加報告会での発表
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前学修の各テーマについて自らリサーチを行うとともに、必要なスキルやマナーに関することがらを十分に復習しておく。実習中は必ず日報を作成し、振り返りを記入する。実習終了後は報告書として体験をまとめる。各回ごとにおよそ2時間の学修が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加報告書等については、報告会において講評を行う。

6. 授業における学修の到達目標

インターンシップ・職業体験に必要な手続きやビジネスマナーなどを身につける。企業等の現場における就業体験を通じて実務能力を身につける。自ら主体的に職業選択を行えるようになり、自律的に行動できる社会人となる。

7. 成績評価の方法・基準

受講態度および事前学修提出物（20%）、実習先企業による評価・実習日報・参加報告書等（60%）、報告会に向けた資料作成および発表（20%）を総合して評価する。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて紹介する。

9. 受講上の留意事項

職業体験的な実習に原則として5日間以上参加することが必要であるので、夏期休暇もしくは冬期休暇に実習に参加できるように計画を立てて履修すること。

インターンシップ・職業体験は実習先の好意で行われるものであり、事前研修を十分に修得し、実習先への感謝の気持

ちをもって対応すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。